

金沢大学計算機センター利用状況

当センターも発足以来2年半過ぎましたので、ここでセンターの利用度を調査し掲載しました。

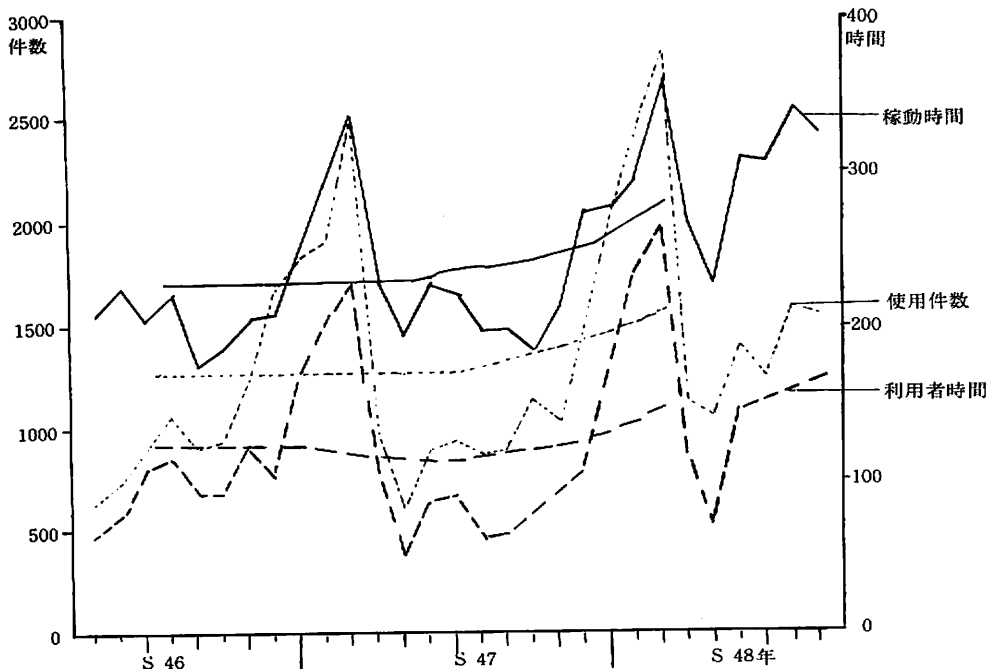
図1は、利用者使用件数と時間、そしてセンター稼働時間の折線グラフと移動平均の両方を描いたものです。又図2は、図1の各平均値を100%として月別のパーセンテージを示したものです。図1より過去2年間のセンター使用率は一定ですが、今年度に入り急激に伸び始めています。これは、利用者の増加、夜間受付と料金の割引等によるものと思われます。

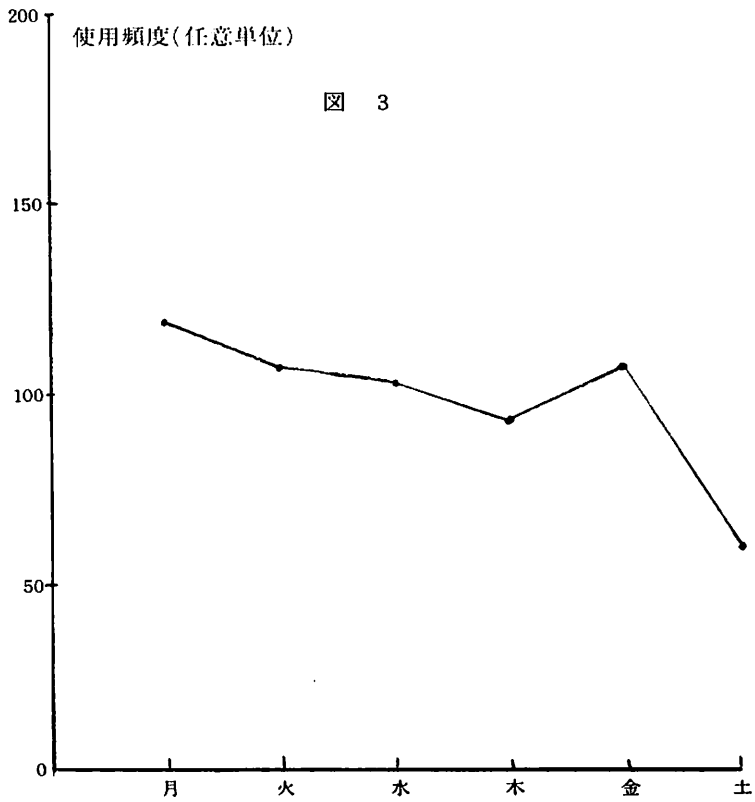
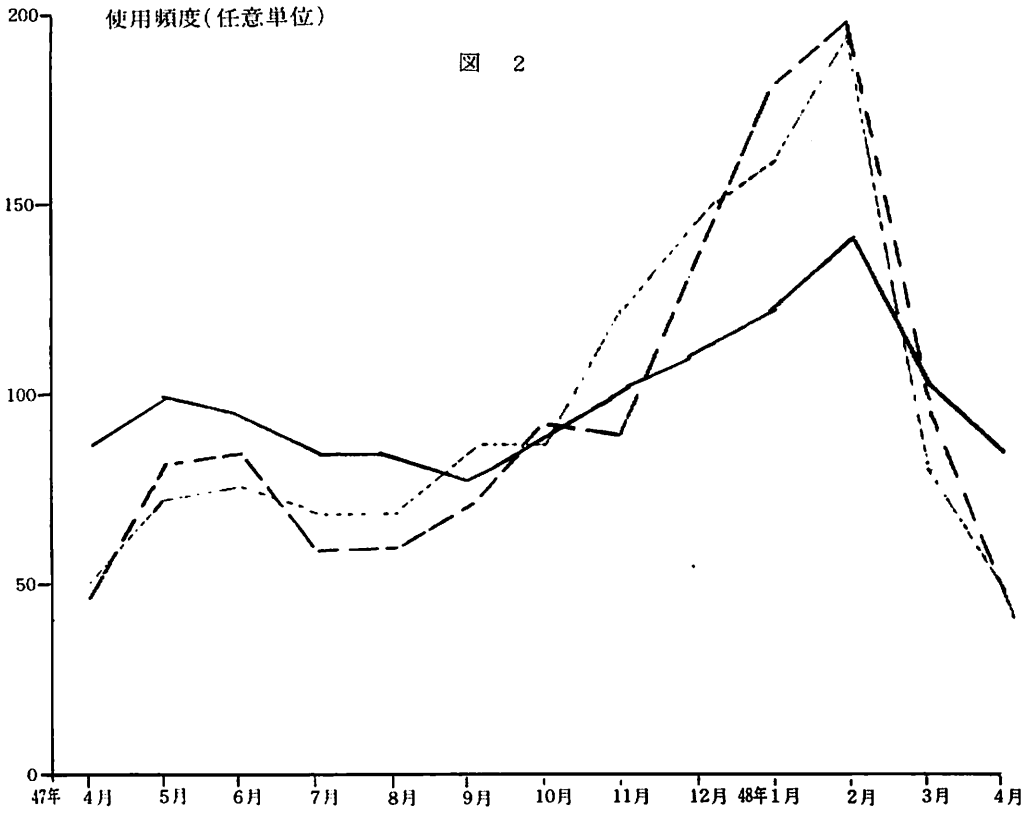
このまま増加したとすると今年度の1、2月には、使用件数で約3,500件、使用時間は約360時間となり非常に混雑が予想されます。又将来なお一層増加すると思われるので、1、2月は、時間的制限を受け、利用者が十分に計算機を利用出来なくなるので、図2に見られますように利用率は、1、2月頃にほぼ集中しており7～9月頃はその1/4程度の利用率であるから利用者が積極的に7～9月頃に計算をするように心掛けて下さい。

又参考までに図3を載せました。これは曜日別使用ひん度であり、図からもわかりますように土曜日が異常に少ないのは、半日の為であり、又水曜日が少ないのは、定期保守が各週にある為と見られます。これより比較的すいているのは、木曜日です。

(松川記)

図 1





速 報 ・ 再 録

1. 時間外の受付、業務に関する問い合わせは、下記の電話を御利用下さい。
61-2108 (計算機センター)

ただし、平日は17時30分～20時まで、土曜日は13時30分～15時までです。

2. 「FÖRTRANプログラム」講習会を7月11日～13日(初級)、9月6日～7日(主にサブルーチン)に行ないます。
3. BÖS-2FÖRTRANは、来たる7月2日よりEDITIÖN-5から、EDITIÖN-8に更新されました。またBÖS-FÖRTRANにはなくて、BÖS-2FÖRTRANにだけあるいくつかの有用な機能が新しく追加されましたので、御利用になる方は、速報No.5, 6を参照して下さい。
4. NEAC-2230が故障のため当分の間使用出来ません。なお、修理するかどうかは、9月頃に判明いたしますので使用可、不可は追って通知します。

各大型センターへの計算依頼状況(昭和47年度)

昭和48年2月28日現在

	課 題 数	件 数	C P U
北海道大学	0	0	0
東北大学	1	1	0
東京大学	8	7	56
名古屋大学	10	186	73,079
京都大学	27	631	136,207
大阪大学	2	117	13,897
九州大学	0	0	0

cpu: 秒単位

広報 VOL. 3, No. 1, 1973 正 誤 表

ページ	行	誤	正
6	下8	$\cdot \exp \left\{ 2\pi i (hx_n + ky_n + lz_n) \right\} \cdot \exp \left\{ -B_n \frac{m^2}{\lambda^2} \right\}$	$\cdot \exp \left\{ 2\pi i (hx_n + ky_n + lz_n) \right\} \cdot \exp \left\{ -B_n \frac{m^2}{\lambda^2} \right\}$
9	下6	結晶学会議特集号	結晶学会議特集号
11	下5	$\exp (ah\nu_i / kT) - 1$	$\exp (h\nu_i / kT) - 1$
13	上9	空間($n+1$) 個	空間の($n+1$) 個
13	下18	③ - a : <u>優決定系に対する Gaussの反復法</u>	下線をとる
13	下7	③ - b : <u>微分を用いない Powellの最小二乗法</u>	
15	下3	BFFF バイト	BFFF ワード
16	上5	6732 バイト	6732 ワード
16	上6	$6732 / 4 = 1683$	$6732 / 2 = 3366$

原稿募集要項

1. この広報を有用なものにするため、つぎのような原稿を募っておりますので、積極的なご協力をお願いします。
 - a 計算機に直接・間接に関係する随想・論説
 - b 計算機を利用した研究・開発の紹介とプログラミング技法
 - c I/Oチャンネルに載せる情報、利用者・非利用者の声
- 2 原稿用紙は規定のものを用意してありますので、広報委員かセンターに申しこんでください。
- 3 原稿は、各キャンパスの広報委員にご提出ください。計算機センターを通していただいても結構です。投稿について不明の点がありましたら、広報委員にお問い合わせください。

編集後記

本号の原稿の依頼が6月末で〆切が9月上旬、暑中にもかかわらず、原稿をお寄せ下さった各位に感謝申し上げます。

センターでは年々増加する利用度の対策を検討するために、利用者数、利用件数の調査を行い、その結果の一部を本号に発表いたしました。

利用者の増加に伴い、広報の発行部数も増加していきませんが、時々、広報がほとんど読まれることなく棚に眠っているということをききます。私たち広報委員はそういうことが少しでもなくなるように、内容の充実もさることながら、より見やすくするための努力もしております。その一つとして、一つの記事のはじまりは従来1H0であったのを1H1になるようにし、そのために生じた空白には、肩の凝らない断片的な記事をいれるということを試みております。この空白に入るような記事（所定の原稿用紙1枚～1枚半程度）をお寄せ下さい。内容は、プログラミングの失敗談、わらい話、思いつき、あるいは漫画等何でも結構です。この他に、広報に対する御意見、原稿をどんどんお寄せ下さい。

(M. S)